

■ 編集委員

菅澤 正 (編集委員長)

池淵 研二 小林 国彦 小山 勇 篠塚 望 千田みゆき 名越 澄子 仁科 正実
堀江公仁子 町田 早苗 松下 祥 Chad L Godfrey (五十音順)

■ 編集後記

Covid-19 は盤石とも思えた、現代社会の脆弱さを露わにいたしました。医学界に対する影響も甚大です。学会も web 開催が主体になりつつあり、会場での打打発止のやりとりは、過去の遺物になりそうです。集会後の他学との交流を楽しみにした世代にとっては寂しく感じます。一方で、on demand で多くのプログラムを視聴できるなどのメリットもあり、若手医師には意外に評価支持されているようです。第3波も収束の兆しが見え、ワクチンの投与も開始され、漸く正常化への道筋が見えてきましたが、コロナ以前に戻ることは困難で、新たな標準が求められており、これも virus による社会の進化でしょうか。

さて、埼玉医学雑誌 47 巻 2 号をお届けします。本号では、昨年 11 月 7 日に開催された第 1 回オール埼玉医大研究の日を特集いたしました。開学 50 周年を前にして埼玉医科大学のプレステージを更に高めるために弱点である研究振興を意図して開催されました。残念ながら Covid-19 の影響を受け、規模を縮小して web を利用した開催となりましたが、若手医師、学生には大きな刺激となったようです。本号では COVID-19 に関する岡教授、亀井教授の臨床医学、社会医学的側面からの特別講演と、初々しい学生さんの感想を掲載いたしました。又、本学には多くの共同利用研究施設がございます。昨年“共同利用施設利用の手引き”を作成いたしました。その全文を掲載しております。各キャンパスで研究環境の充実が図られており、驚くような最新機器も設置されている状況が一目で分かります。今後利用を考慮されている先生は是非参考にしてください。本号の後半では、学内グラント 28 件の研究成果報告書を掲載いたしました。本学にも研究の seeds は豊富に存在することが見て取れます。学内グラントが呼び水となり、研究を進展させ今後の外部資金獲得につながるよう期待いたします。

昨年 9 月 14 日に開催された第 17 回 RCGM フロンティアシンポジウム“基礎研究から臨床医学への飛翔”の特別講演、自治医大免疫遺伝子治療学講座小澤敬也教授の“本格的実用化が進み始めた遺伝子治療：CAR-T 細胞療法を中心に”を掲載いたしました。日進月歩の領域であり、マスコミにも報道され、患者も注目している療法です。現状と問題点、今後の展望が述べられています。

新専門医制度では、筆頭著者の論文が必須です。更に本学の学位制度も、学位論文が和文の場合、基本学会の機関誌か埼玉医学雑誌に限ると変更になったため、最近本誌への投稿が増加しております。本号も原著論文 2 編、症例報告 1 編の力作が掲載されました。厳重に査読しており、それぞれ数回やりとりしております。稀に、期日指定で投稿する方もおりますが、内容によってはご希望に添えないこともありますので、十分に時間的余裕を持って、推敲して投稿することをお願い申し上げます。

(菅澤 正)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第 47 巻 第 2 号

編集責任者 菅澤 正

令和 3 年 3 月 16 日 印刷

令和 3 年 3 月 31 日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049 (276) 2102/2030 (直通) FAX 049 (276) 1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作 レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の 5 電話 (082) 844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>